

## ウソ情報と本当の情報をどう見分けるか

今、世の中は、ウソ情報と本当の情報が入り乱れているので、米主流メディアを中心とする、信用できる、一つの権威ある情報本部を設けようという動きが、米政府から起こっている。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/161124.pdf>

その設立主体となるのが **First Draft Coalition**——“第一草稿連合体”と訳すべきか——なのだそうだが、これはどう見ても、ウソつきの張本人が作るウソ取締本部のようなものである。こういうものができれば、我々のこのサイトや、我々が選んで訳しているいくつかの英語のサイトや、ロシアの **RT** のような、基本的に米政府を信用しない情報源は、すべて取締りの対象になるだろう。私が最初に思い出したのは、キャメロン前英首相が、9・11 について米政府の公式説明を疑うような言説をなす者は、「非暴力過激派」なのだから取り締まるべきだと言った、国連での発言である。これを聞いてあきれた一市民が、公開質問状をネット上に発表した。これについて私はある新聞にエッセーを書いたことがある。

[http://www.dcsociety.org/2012/info2012/150531\\_1.pdf](http://www.dcsociety.org/2012/info2012/150531_1.pdf) (新聞社が手を入れる前の原文)

ではどちらが正しいのか、そんなことを言うお前は正しいのか、ということになる。これは私の仲間うちでもよく議論になる。情報の真偽の一つの判断の仕方は、犯罪捜査と同じで、状況証拠がいくつか揃えば、ほぼ真と断定することができる。ある犯行現場を、関係のない複数(多数)の人々が、全く別の角度から見ていて証言が一致すれば、ほぼ断定して差し支えない。(あくまでほぼであって百パーセントではない。)

9・11 テロが自作自演(ニセ旗作戦)と断定できるのも、それによる。そのためには、できるだけ多くの人々の証言を読んだり聞いたりしなければならない。これ一つあれば十分という証拠もあるが、やはり疑いが限りなく濃厚になるということにすぎない。これは 2014 年 7 月 17 日の、マレーシア航空機 **MH17** 撃墜事件についても言える。これがウクライナ政府とアメリカの犯行であることを証明する状況証拠は、今でも出続けている。アメリカがそんな悪いことをするはずがないと信じ、しかも新聞とテレビしか見ないという人は多いが、これはアメリカにとって有難い存在、彼らの思うツボにはまっている人々である。

しかしこれは、個々の事件を単独に見た場合であって、これら個々の出来事や現象や“思い当たるふし”をつなぎ合わせて見えてくる、全体的な構造というものがある。その全体像が真偽の判断のより確かな根拠となる。簡単に言えば、情報が善人の口から出たものか、悪人の口から出たのものかの洞察がなければならぬ。上にリンクした「偽ニュース」につい

てどう対処するか」に紹介されている、米務省報道官の RT 記者に対する対応を見ていた  
だきたい。これはどう見ても見苦しい。破廉恥かつ傲慢である。しかしこれはジョン・カー  
ビー氏の問題ではない。彼自身がこんな悪辣なウソつきではないであろう。報道官として誰  
が出てきてもこういうことが起こっている。ということは、米務省が、そして米政府全体  
が、信用できない破廉恥なウソつき、悪人だということである。誰でもウソはつく。しかし  
アメリカのウソはそういうものではない。ウソにウソを重ね、武力を背景にこれをどこまで  
も押し通し、世界を乗っ取ろうとするアジェンダによるウソである。

前にも書いたが、現在の世界を読み解くための私の仮説は、聖書「マタイによる福音書」13  
章にある毒麦と良い麦のとえ話にあり、その区別が、時間とともにますます明白になると  
いう事態が、今、我々の目の前で起こっているということである。何年か前に立てたこの仮  
説は正しかった。刈り取って燃やされるべき毒麦、すなわち「悪」が、いよいよ極限の姿を  
見せ、醜悪な、正視できないような正体を見せ始めた。Pizzagate と呼ばれるスキャンダル  
がそれである。これは私を特に驚かせはしなかったが、脈絡を全く知らない人には、全く  
信じられない、馬鹿げた“ニセ情報”であろう。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/161121.pdf>

これはクリントン夫妻だけの話ではない。米政府のトップにある人々全体の話である。米国  
民は、自分たちを保護してくれていると思っていた人々が、彼らを（文字通り）食い物にし  
ていることを知った。今まで「サタン」という概念が頭になかった人々が、サタンの実在を  
知るようになった。「純粋な悪」(unadulterated evil) という言葉を P・C・ロバーツは、特  
に宗教的ニュアンスなしに使っている。そう表現せざるを得ないほどに、「悪そのもの」を、  
現在のアメリカ政府は体現しているということである。多くの人は、サタンなどというもの  
は迷信だと思っている。そうではない。そう考えなければ現実の把握はできない。

今回の大統領選挙はただの選挙ではなかった。摂理的な選挙だった。選挙人数ではトランプ  
が圧倒したようだが、各州が接戦であり、個人投票では僅差でクリントンが勝っていた。こ  
れは確実に善悪闘争の分水嶺になるものである。これですべてが順調にいくとは誰も考え  
ないが、しかし方向性がこれで根付いたことは間違いないだろう。